

平成25年度日本財団助成事業報告 シーバードプロジェクト協力活動

2014年2月28日



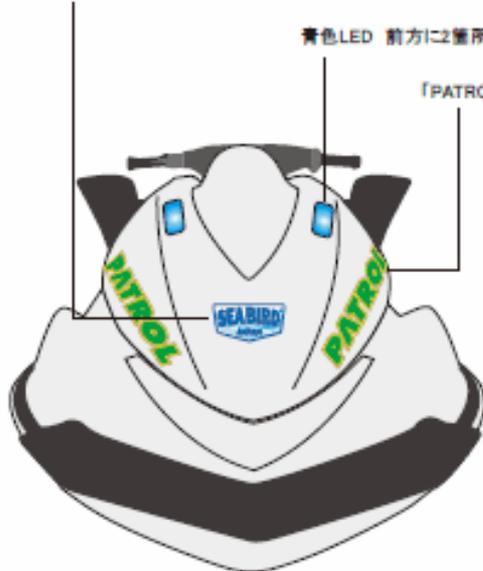
シーバード青島『渚の交番』(宮崎ライフセービングクラブスタッフ)

特定非営利活動法人パーソナルウォータークラフト安全協会

「Sea Bird Japan」ロゴ(センターに)

青色LED 前方に2箇所 後方に2箇所(特に位置は指定しません)

「PATROL」ロゴタイプ:左右に2箇所



「Sea Bird Japan」ロゴ:左右に2箇所



「PATROL」ロゴタイプ:左右に2箇所 (ロゴの中心がハンドル付近の位置)

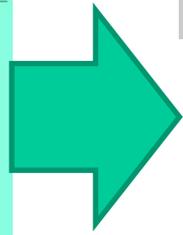
日本財団ロゴタイプ:後部左右に2箇所

船体上半分(デッキ部分)バンパーより上部は白色に塗装

船体下半分(ハル/ボトム):塗装不要(メーカー出荷状態)



2013年新PWCデザインマニュアル変更しました



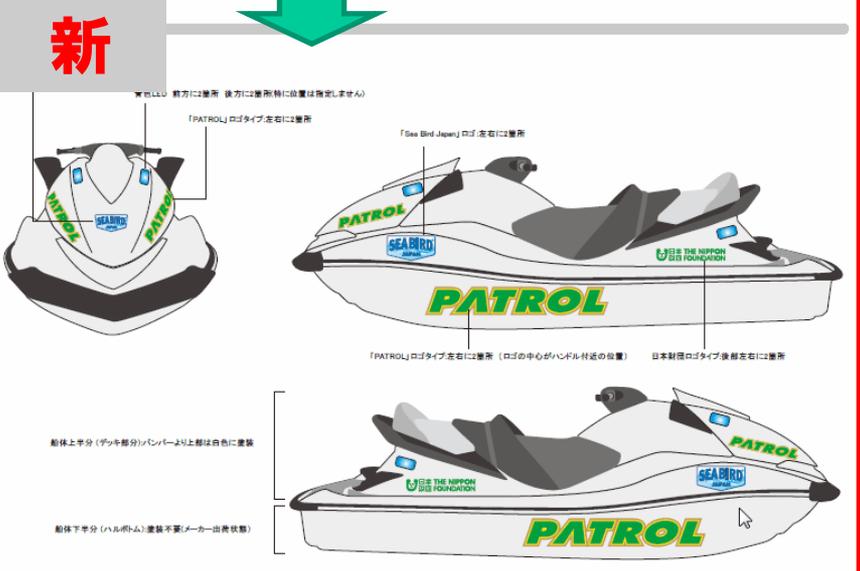
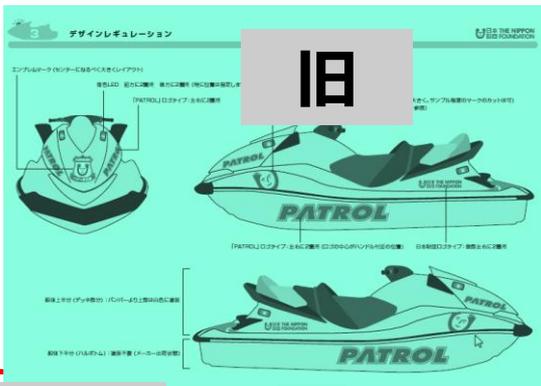
『顔マーク』単体の使用は不可



『ロゴ基本色』の変更

CMYKの場合
→ C80+Y100

特色の場合
→ PANTONE 355C or DIC 2560 第2版



プロジェクト組織とシーバード設置のしくみ(概略図)



・シーバードプロジェクト幹事団体へ日本財団から助成(各団体で助成申請)

幹事団体
ウォーターリスク
マネジメント協会

・隊員訓練/養成講習実施

幹事団体
PW安全協会

・PWC支援機材配備(寄贈)
・プロジェクト事務局運営

幹事団体
日本青バイ隊

・ロビー活動・事前調査等

ボランティア・関係団体等へ誘致活動

シーバードプロジェクト
(任意団体シーバードジャパン)

認定

認定

認定

シーバード条件など

- ・シーバードジャパンへ登録
(4名以上/隊・要登録料/毎年)
- ・PWC/機材1セットは各隊に贈与
- ・PWCの保険は各グループで加入
- ・維持運営は各グループで独立採算
- ・登録料=24000円/1グループ/年間
- ・日本財団助成ロゴを表示

※PWCを使用した社会貢献活動を現在実施中の団体への応援

登録申請

登録申請

登録申請

候補グループ

候補グループ

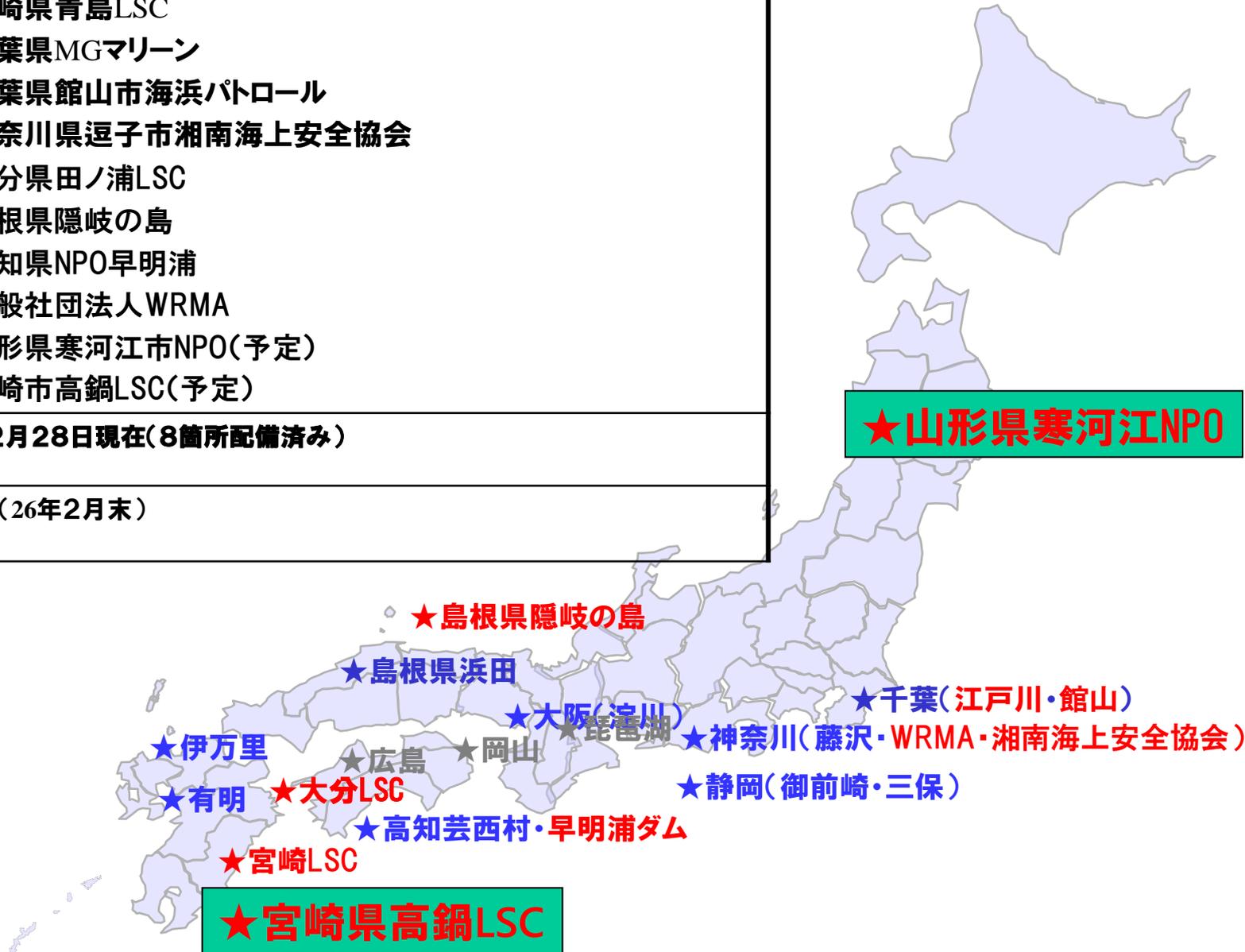
候補グループ

シーバード○○○

シーバード(パトロール艇/支援機材)配備報告

(2014年2月28日現在)

| 平成25年度配備状況 | |
|-----------------------|--|
| 配備計画 (贈呈先) | ①宮崎県青島LSC ②千葉県MGマリーン ③千葉県館山市海浜パトロール ④神奈川県逗子市湘南海上安全協会 ⑤大分県田ノ浦LSC ⑥島根県隠岐の島 ⑦高知県NPO早明浦 ⑧一般社団法人WRMA ⑨山形県寒河江市NPO(予定) ⑩宮崎市高鍋LSC(予定) |
| 事業進捗 | 26年2月28日現在(8箇所配備済み) |
| 累計配備隻 | 17隻(26年2月末) |



| | 平成25年度配備状況 |
|---------------|---|
| 年度計画 | 新事務局態勢で組織拡充を目指す。シンポジウム、アワードの開催 |
| 配備計画 (寄贈先) | <ul style="list-style-type: none"> ①宮崎県青島ライフセービングクラブ『渚の交番』 ②千葉県エムジーマリン ③千葉県館山市(館山サーフクラブ海浜パトロール) ④神奈川県逗子市(NPO湘南海上安全協会) ⑤大分県田ノ浦(大分ライフセービングクラブ) ⑥島根県隠岐の島(隠岐マリンスポーツ振興協議会) ⑦高知県早明浦ダム(NPO早明浦プロジェクト) ⑧一般社団法人WRMA ⑨山形県寒河江市NPO(予定) ⑩宮崎市高鍋ライフセービングクラブ(予定) |
| 事業進捗 | 平成26年2月28日現在(8箇所配備済み) |
| 累計配備隻 | 17隻(平成26年2月末) |
| 備考 | 平成25年11月シンポジウム開催、26年4月アワード開催予定 ⁶ |

シーバード江戸川発足式/贈呈式(6月2日)



於:エム・ジーマリン様(6月2日)

シーバード江戸川発足式/贈呈式(6月2日)



デモンストレーション行う一般社団法人ウォーターリスクマネジメント協会スタッフ

シーバード逗子発足式/贈呈式(6月28日)



湘南海上安全協会スタッフ/地元ライフセービングクラブの皆様

2013年シーバードプロジェクト進水式・発足式

6月29日シーバード青島(宮崎県)進水式



青島海岸『渚の交番』にて発足式(宮崎ライフセービングクラブスタッフ)

7月1日シーバード田ノ浦(大分県)進水式



シーバード隠岐発足式/贈呈式(7月14日)



於: 隠岐の島にて発足式(隠岐マリンスポーツ振興協議会の皆様)

シーバード館山発足式/贈呈式(7月21日)

館山サーフクラブスタッフ(写真左:館山サーフクラブ代表飯沼誠司様)



シーバード館山

館山市長がシーバード館山の初代会長に就任



ハードサメウラ発足式・PWC贈呈式(平成25年11月23日)

高知県土佐郡土佐町JA土佐れいほく(NPO 法人さめうらプロジェクトスタッフ・地元行政関係者)

第57回土佐町産業文化祭



第37回土佐町産業文化祭



シーバード(新設)候補者推薦のお願い

ボランティア精神あふれるグループをご推薦下さい
自薦他薦を問いません

シーバードに加盟して頂くことで活動の充実を目指し、
またPWCの社会的認知向上を目指して、
ともに力をあわせてゆきたいと願います。

- ①PWCを使用した社会貢献活動を現在行っているグループ
- ②これから、シーバード活動に参加する志のあるグループ
- ③使用している水域で、より良い利用(適正利用)を目指し、活動しているグループ

平成26年度(平成27年3月末迄)は、20箇所程度設置の
予定です。※シーバード認定には条件があり調査があります。

『水上オートバイを活用した社会貢献活動の充実を目指す、マリンスポーツ&レジャー関係者のためのシンポジウム』開催報告



2014/5/19

18

水上オートバイ(PWC)を活用した社会貢献活動の充実を目指す、 マリンスポーツ&レジャー関係者のためのシンポジウム



主催 NPO法人パーソナルウォータークラフト安全協会

PWCによる貢献～地域社会のためにできること ～PWCの社会的活動の現在・過去・未来～

パトロールやレスキューも含め、パーソナルウォータークラフトが海や湖、河川などさまざまな水辺で活用され地域社会に役立っています。これらの活動を検証、再認識し、国民の海洋スポーツ・レジャーへの関心をさらに高め、海と人との関わり方を考えていくきっかけになること、そしてPWCの認知向上を目指したいと思います。

水上オートバイ関係者をはじめ、マリンレジャーに関わる方々のご参加をお持ち申し上げます。



開催日

平成25年11月14日(木)

午後 1時 30分 受付開始

午後 2時 開会～5時 終了予定

会場

ハイアット・リージェンシー・福岡

福岡市博多区博多駅東2-14-1 〒812-0013 TEL:092-452-2552

プログラム

- 基調講演 千足耕一氏(東京海洋大学准教授)
「マリンスポーツの将来性・海面利用者の意識調査
PWCの利点、マリンスポーツによる地域貢献」
竹田聖也氏(マリンパトロールステーション福岡代表)
「博多湾水域におけるPWCによる水難救助活動のあゆみとこれから」
- シンポジウム (基調講演のお二人に加えPWCによる社会貢献活動をテーマに発信します)
 - ・山口富士夫氏(伊万里から。地域に密着した日本青バイ隊の活動展開)
 - ・藤田和人氏(宮崎から。消防団活動にPWCを導入)
 - ・辻村幸生氏(高知から。PWCを用いた特色ある学校づくりを目指す)
 - ・PWCの3ブランド、行政関連から参画予定

内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

定員

100名 参加無料

主催

NPO法人パーソナルウォータークラフト安全協会

後援

国土交通省海事局舟艇室(予定)

参加お申込
お問い合わせ

特定非営利活動法人パーソナルウォータークラフト安全協会
本部事務局 電話 078-920-1091

日本財団助成事業



自然体験活動から水難救助等の実際をレポート

各地に広がる水上オートバイの貢献活動を再認識したシンポジウム

主催 NPO 法人パーソナルウォータークラフト安全協会

「PWCによる貢献～地域社会のためにできること」
～PWCの社会的活動の現在・過去・未来～

- ◆ 催事名: 「PWCによる貢献～地域社会のためにできること」～PWCの社会的活動の現在・過去・未来～
 - ◆ 開催日: 2013年11月14日(木)(午後2時～5時) ◆ 会場: 福岡県福岡市(ハイアット・リージェンシー・福岡)
 - 主催: NPO 法人パーソナルウォータークラフト安全協会(PWSA)
 - 後援: 国土交通省
- ※日本財団助成事業

水上オートバイ=Personal Water Craft=PWC

NPO 法人パーソナルウォータークラフト安全協会(以下、PWSA)では、2013年11月14日(木)、福岡県福岡市内にて、「PWCによる貢献～地域社会のためにできること」～PWCの社会的活動の現在・過去・未来～を開催しました。マリンレジャーへのエントリーピークルとしても注目を集めているPWCによる地域貢献活動の報告を軸に、それらの情報共有と発信を目的に行われたものです。これまでも各地で多様なスタイルで社会、地域に貢献しているPWCの事例が紹介されたことを受け、「役立つ手軽な海の乗り物」であることを再認識し、周知徹底していくことが今後の優先課題であることを確認しました。

開会に先立って、主催のPWSAの竹長 潤会長は「PWCは一般ではネガティブに扱われることが多いが、2011年の3.11での被災者救助での活躍に代表されるように、社会貢献活動の認知拡大していきたい」と今回

福岡の代表を務める竹田聖也氏の「博多湾水域におけるPWCによる水難救助活動のあゆみとこれから」というそれぞれをテーマとしたお二人による基調講演がありました。

開会に先立って、主催の PWSA の竹長 潤会長は「PWC は一般ではネガティブに扱われることが多いが、2011 年の 3.11 での被災者救助での活躍に代表されるように、社会貢献活動の認知拡大していきたい」と今回のシンポジウムの主目的を説明。また特殊小型船舶免許取得者の 2 桁伸張に触れ、マリンレジャーを始めるのにふさわしい乗り物であることと、社会との共生のためにルール、マナーの啓発活動にも務めていきたいと結びました。後援をいただいた国土交通省(海事局船舶産業課舟艇室)の岩本泉室長は「舟艇を振興する立場として、マナーの啓発、グレンデの確保等の課題がありますが、PWC による社会貢献活動をもっと認知拡大していくことが大切です。騒音、暴走等の苦情も寄せられることがあります。このシンポジウムのような取り組みで周知していくことが必要と思います。国土交通省でも PWC の適正利用のためのグレンデ、マリーナの調査を実施しています」と挨拶をいただきました。

第 1 部は、マリンスポーツ実習、海洋性レクリエーション論、海洋スポーツ科学を専門に東京海洋大学で教鞭をとる千足耕一氏による「水辺での体験と教育～PWC の可能性～」、続いて、PWC を用いて水難、海難救助の支援活動を展開しているマリンパトロールステーション

福岡の代表を務める竹田聖也氏の「博多湾水域における PWC による水難救助活動のあゆみとこれから」というそれぞれをテーマとしたお二人による基調講演がありました。

パネルディスカッションでは、伊万里、宮崎、高知、大阪の 4 地域における PWC での活動報告をもとに、社会、地域、行政や公的団体との連携、水面利用のルール作り、またマリンレジャーに関わる人、組織の責任等について発言がありました。

会場には国土交通省や地元九州運輸局、PWSA 会員、マリンレジャーに関わる事業者、ボランティアグループ、行政関係者約 80 名が参加し、「教育機関での PWC 活用の実例紹介」や「水上バイクの水面利用のための調整、ルール作り」、「消防署と消防団の位置づけ、関係の図式を海上保安部とシーバードの関係に置き換えて取り組みを」等、活発な意見交換が行われました。閉会の辞では、本事業の助成団体である日本財団の海洋グループ海洋安全・教育チームの荻上健太郎リーダーが、「今日発表された事例のような日常的な取り組みか大切という思いを共にもって、助成事業かどうかや、どの所属かという枠に留まらず“皆さんとともに作り上げ”前に進めていきたいと思います」と締めくくりました。

■登壇者発言要旨(発言順) 敬称略



千足 耕一（ちあし こういち）●東京海洋大学 海洋科学部

海での活動をめぐる最近の統計、マリンスポーツによる地域貢献の可能性、海面利用者対象の意識調査等、豊富なフィールドワークに基づいて、「水辺での体験と教育～PWCの可能性～」をテーマにお話いただきました。



竹田 聖也（たけだ としや）●マリンパトロールステーション福岡 代表

平成 17 年からの対 PWC ユーザーの「安全指導」、「安全啓発活動」、「海難救助活動」の活動報告と PWC がいるから安心といわれる社会を目指した「博多湾水域における PWC による水難救助活動のあゆみとこれから」を発信していただきました。



山口 富士夫（やまぐち ふじお）●NPO 法人 日本青パイ隊

「PWC を活用した地域に密着した活動展開」をテーマに PWC ユーザーのマナー向上、PWC によるイベント警戒、救助支援、環境保全、体験学習の諸活動によるマリンレジャーの普及・振興事例を紹介していただきました。



藤田 和人（ふじた かずと）●NPO 法人 宮崎ライフセービング協会 理事長

平成 17 年台風 14 号被災時に PWC での救助活動の実績を基に 19 年に創設された「宮崎市消防団機能別団員 水上バイク隊」をテーマに、PWC の機動力と「カッコ良さ」で減少している消防団も元気にする活動をお話いただきました。



力と「カッコ良さ」で減少している消防団も元気にする活動をお話いただきました。



辻村 幸生（つじむら ゆきお） ●NPO 法人 さめうらプロジェクト 理事長

守る（環境保全、安全利用、健全なフィールド作り）、遊ぶ（観光、スポーツ振興）、学ぶ（人材育成、体験交流）の三本柱を掲げ、ダム湖での「日本一愛されるセラピーレイクを目指して」をテーマに地域活性化ビジョンを発信しました。



滝本 一（たきもと はじめ） ●NPO 法人 PW 安全協会 大阪支部長

国土交通省近畿地方整備局との連携による河川での利用ルールの策定等、実務の蓄積からの提案、また PWC による水難救助での生存率向上のための機材開発まで「淀川河川の管理と社会貢献事業」をお話いただきました。



PWSA

竹長潤会長



国土交通省

岩本 泉 舟艇室長



日本財団 海洋グループ

荻上健太郎リーダー

PWSA 会員をはじめ国土交通省や九州運輸局、マリンレジャーに関わる事業者、ボランティアグループ、行政関係者、約 80 名が参加（ハイアット・リージェンシー・福岡にて） 敬称略

PWC利用者向け安全航行(推奨)ルールちらし

～大阪河川の安全啓発(適正利用)推進～

- 時期:平成26年3月末を目処に
パンフレット配布開始
- 配布:PWSA関西地方本部会員(40社)
中ノ島ゲート
- 内容:行政作成の禁止規制内容ではなく、PWC利用者目線の分かりやすい
パンフレットを目指して作成。

大阪府河川会議において承認を頂き、PW安全協会の推奨ルールとして完成

やさしく乗ろうよ、人も自然も大切に。

安治川や尻無川、木津川から、堂島川・土佐堀川・大川の水上航行をされる時は

水上オートバイ
愛好家の皆さんへ

●通航制限区域

河岸周辺は浅場で釣り人も多くいます。岸辺には近寄らないよう走行しましょう。



●追い越しません

観光船や作業船が航行している場合、追い越さないようにしましょう。



●手漕ぎボート注意

天神橋周辺は手漕ぎボートや観光船が多く航行していますので注意しましょう。



●水門から航行禁止

道頓堀川と東横堀川の水路には水門があり、航行することはできません。



●ひき波をたてない

観光船や作業船の付近では、ひき波を立てないように走行しましょう。



●係留および停泊禁止

大阪市内の河川一帯には係留や停泊できる場所はありません。



シーバードプロジェクトとは、公益財団法人日本財団、特定非営利活動法人日本青バイ隊、一般社団法人ウォーターリスクマネジメント協会、特定非営利活動法人パーソナルウォータークラフト安全協会(PWSA)の4者が幹事団体として推進する共同プロジェクトです。ボランティアが主体となり、日本国内水域の水難事故、地域・社会貢献、環境保全を行う事を目的に水上バイクを用いた活動を行っています。大阪府河川で水上オートバイの利用適正化を目指して、シーバード大阪支部が青色点滅灯特殊装備白色水上オートバイを使用して水上パトロールなどボランティア活動を2013年度より開始致しました。

お花見フェスタに伴う安全パトロール

大阪市内河川での自主安全啓発活動

シーバード大阪支部による自主安全啓発パトロール（平成25年4月実施）



大阪市内河川での自主安全啓発活動 シーバード大阪支部による自主安全啓発パトロール（平成25年4月実施）





摂津市内河川での人命救助活動に対して摂津消防署より感謝状授与 シーバードよどがわ隊員(平成25年)